

LEXUS、ミラノデザインウィーク 2025 に出展を発表

- ・LEXUS が目指す次世代モビリティを実現する新世代コックピット操作デバイス「ブラックバタフライ」に着想を得て、クルマが人と通じ合って移動に新しい可能性を拓くネクストモビリティを表現した没入型インスタレーション『A-Un』を展示。
- ・さらに、「ブラックバタフライ」の可能性を気鋭のクリエイターと表現する「Discover Together」を同時公開。3組のクリエイターによるインタラクティブ作品を展示。

LEXUS は、2025 年 4 月 8 日（火）～13 日（日）、イタリア・ミラノで開催される世界最大のデザインイベント、「ミラノデザインウィーク 2025」※1 に出展し、世界中のクリエイションが集結するトルトーナ地区の中心であるスーパースタジオ・ピュー内デイライトにおいて、インスタレーション『A-Un』と、気鋭のクリエイター3 組と表現したインタラクティブ作品展示 “Discover Together” を世界初公開します。



LEXUS はこれまで、従来のラグジュアリーカーの常識を打破する挑戦を続け、商品とサービスの両面で限界を押し広げ、お客様の一瞬一瞬を大切にする新しい体験を創造してきました。

昨年 2024 年のミラノデザインウィークでは、次世代バッテリーEV コンセプト「LF-ZC」に着想を得た、インスタレーション「Time」を展示。ソフトウェアが未来を予見しながら、クルマを通じた一人ひとりの体験価値の可能性を新たに広げ、絶え間なく進化し続けてい

くというテクノロジーによる未来の無限の可能性に対する LEXUS の想いを表現しました。

今回の展示では、その想いをさらに具現化させるべく、LEXUS の新世代コクピット操作デバイス「ブラックバタフライ」※2 をモチーフに制作したインスタレーション作品と3組の気鋭クリエイターによる作品を展示。

インスタレーション『A-Un』は、LEXUS と東京を拠点とするクリエイティブエージェンシー「SIX」、デザインスタジオ「STUDEO」が協業し、クルマが人と通じ合っって新しいモビリティが拓かれる様を表現。日本が古来より大切にしてきた互いの気持ちや動きを感じ取りながら、両者の呼吸が奇跡的にぴったりと合う現象「阿吽の呼吸」にインスピレーションを得て制作された没入型インスタレーションを、ぜひ巨大空間のなかでお楽しみください。

また、これまで LEXUS は、革新的なアイデアで、より豊かな社会・未来を創造しようとする気鋭のクリエイターをサポートする国際デザインコンペティション「LEXUS DESIGN AWARD」を約 10 年間にわたり実施してきました。その後継プロジェクトとして新たに「Discover Together (仮称)」を始動。クリエイターとの共創に重きを置き、『A-Un』と同じく、「ブラックバタフライ」の新たな可能性を株式会社**バスキュール、ノースイースタン大学、レクスインハウスデザイナー、3組のクリエイター**ならではのユニークな視点で再解釈・表現するインタラクティブ作品を公開します。彼らが「ブラックバタフライ」とどのような化学反応を起こし、どのような時間・体験を表現するのか、ぜひご期待ください。

※1 イタリア・ミラノで行われる世界最大のデザインエキシビション。家具メーカーやファッションブランドが独自性をアピールする様々なイベントを開催

※2 次世代バッテリーEVへの搭載を目指した新世代コクピット操作デバイス

出展情報

日時	プレスデー：4月7日(月)、一般公開日：8日(火)～13日(日)
会場	スーパースタジオ・ピュー内デイライト (Superstudio Più)
住所	Via Tortona, 27, 20144 - イタリア、ミラノ
展示	インスタレーション『A-Un』 / 作品展示「Discover Together」with Bascule Inc., Northeastern University and Lexus Designer Team
主催	Lexus International

“A-Un” 参画クリエイタープロフィール

野添 剛士 (SIX Inc.)



2013年にクリエイティブカンパニー SIX Inc.を設立。クリエイティブ・ディレクターとして、トヨタ GR やレクサスをはじめ、国内外のブランドとともに未知なるコミュニケーション表現やリアル体験を生み出すことに挑戦している。1000 台のドローンを使った空間表現や、OK Go と協働した MV 「Obsession for smoothness」、成層圏とのリアルタイムインタラクション「Space Balloon Project」など、テクノロジーとの融合で表現領域の拡張に挑むプロジェクトを数多く手掛ける。これまでにカンヌライオンズ金賞、NY フェスティバル金賞を含む 100 をこえる国際クリエイティブアワードを受賞。SIX として自社開発する COTODAMA 「Lyric Speaker」も世界 44 カ国で販売されており商品開発の分野でも独創性が高く評価されている。

<https://sixinc.jp/>

池澤 樹 (STUDEO)



武蔵野美術大学デザイン情報学科卒業。2020年クリエイティブスタジオ「STUDEO」設立。ブランド戦略をアートディレクション起点で、コンセプト構築・PKGなどの商品デザイン・ロゴデザインから CM・グラフィック・空間デザインなどのコミュニケー

シヨンの設計までを一気通貫した世界観で手がける。

2018年ニューヨークで個展「BEYOND THE CRAFT」開催、2024年メキシコ国際ポスタービエンナーレ「The Trio Asia Posters」展に招待デザイナーとして参加。東京ADC賞、JAGDA新人賞、カンヌ国際クリエイティビティフェスティバル、ONE SHOW、ニューヨークADCなど受賞。東京アートディレクターズクラブ会員、日本グラフィックデザイナー協会会員。

“Discover Together” 参画クリエイタープロフィール

以下3チームが「Black Butterfly」を再解釈。



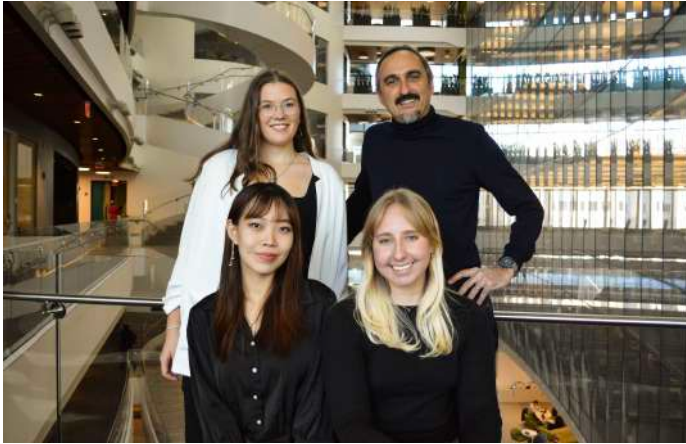
株式会社バスキュール（日本）

メンバー：(写真左より) 岩淵 智幸、朴 正義、大澤 咲子

バスキュールは、あらゆるデータに潜むリアリティや物語を抽出し、エモーショナルな体験を生み出す東京発のクリエイティブチーム。

「DATA-TAINMENT」と名付けた独自の手法を軸に、広告・イベント・スポーツ・アート・都市開発・宇宙と幅広い領域で、誰もが参加できる新たな体験価値の創造に挑んでいる。

<https://bascule.co.jp/>



ノースイースタン大学（米国）

メンバー：(写真左上より) クロエ プロック、パオロ シウツカレリ、ジャスミン イミンサン、エリザベス マキャプリー

ノースイースタン大学センター・フォー・デザインの実務者であるパオロ・シウツカレリ氏の指揮のもと、クロエ・プロック氏、ジャスミン・イミン・サン氏、エリザベス・マキャプリー氏は、データ可視化、体験設計、創造的実践が交差する広範な領域を探求するデザイナー兼研究者チームを構成している。没入型メディア、計算的データ可視化、UI/UX デザイン、デザインリサーチといった専門知識を活かし、新興技術、人間中心設計、詩的計算の隔たりを解消することで、魅力的で思考を刺激する体験を生み出している。

<https://camd.northeastern.edu/center-for-design/>



レクサスインハウスデザイナー（日本）

メンバー：(写真左より) 高島 元、田村 ゆり

トヨタ自動車のデザイナーチーム。ブラックバタフライを再解釈し、新たな表現・体験に挑戦。高島元は、レクサス及びトヨタブランドのモデルから、体験を含めたあらゆるプロダクトを対象に、将来ビジョンやコンセプトを企画している。田村ゆりは、CMF デザイナーとし

てキャリアをスタート。現在はジャンルを問わず既存の概念を覆す革新的なデザインを探求し、人間の感情や経験を新たな視点で捉え、多くの人に感動を届けることに力を注いでいる。

以上